へっぷりじいさん

山のおじさま木切りに行ったば、山の神様が、
「そこで切るものだれだ」
「へっぷりじっこだ」
「したら屁ひとつひってみれ」
って言ったば、
にしぎざらざら　ごようの松
おじゃぴんばらりのぶう
ってしたば、何と山の木も揺すらぐだげの屁ひったんだど。
「何とこえなばえらい、えらい」
ってもうひとづひって見れたば、
にしきざらざら　ごようの松
おじゃぴんばらりのぶう
ってまげたば、また、山の木揺らすだげ勤だどで、とてもえらいえらいて、大したごほうび貰って来て、そこさ隣りのヒコヒコばんば来て、自分のじっこさも真似させだどもうまくいかなかったという、そういう話だったどや。